The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 上級学習者を対象とした「ニュース聴解」の一試案 |
| Author(s) | 三原, 千佳 |
| Citation | 大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2013, 11, p. 21-29 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/50791 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 上級学習者を対象とした「ニュース聴解」の一試案

三原　千佳

**【要旨】**

音声情報は生活の中にあふれており、人との会話やメディアなど様々な媒体がある。そこで得た情報は、多くの場合、単に個人の内にとどまるものではなく、それらを基に思考・判断し行動につながるものである。それを考慮すれば、聴解授業においても目的意識を持って聞くことが重要であると考えられる。そこで、筆者が担当した2011年度春学期の上級聴解の授業は、「ニュース聴解」を講義題目として行い、ニュースの要点や詳細を聞いて理解するだけでなく、インプットをアウトプットにつなげるタスクとしてディスカッションや内容の要約を取り入れた。本稿では、ニュース番組（生教材）を教材として利用した授業の試みについて報告する。まず授業の進め方を説明し、学生の作成した要約文を紹介、最後に毎回の授業のコメントシートから得た学生の反応についても触れる。

## 1．はじめに

私たちは日常生活において様々な方法で情報を収集している。その中のひとつとして、ニュース番組が挙げられる。音声情報は一時性が高く、さらにニュースのように聞き手が情報をコントロールできない一方性の高い聴解を困難に感じる学習者もいるであろう。しかし、ニュース聴解には定型がありそのパターンを知っているかどうかで理解に大きな差がでるという。必要な言語知識と認知能力を分析した金庭（2011）は、ニュースの談話構造は基本的に「リード文＋背景＋詳細＋展望・付加」であることを明らかにし、日本語学習者に指導すべき点のひとつとして日本語母語話者が定型句として捕らえている連語表現を挙げている。ニュース番組を利用した聴解授業の実践報告には、市川（1990）や遠藤（1988）などがある。報道番組のビデオを使用して社会人を対象に授業を行った市川（1990）は「推測能力の向上」「様々なスピーチ・レベルや話し方のスタイルに慣れる」「日本的なコミュニケーションストラテジーに慣れる」「日本事情の知識獲得」「学習者の聴解クラスに対するモティベーションの向上」という効果が認められたと報告している。また、當作（1988）は、聴解練習において重要と思われる観点を（1）学生に聞かせる内容の自然性（2）聞かせる内容の長さと目的（3）聞かせる内容と練習の目的関係（4）練習内の発話タイプ（5）練習を行なう方法の5つに分類し、聴解の心理プロセスを踏まえたニュースの授業方法を提示している。

筆者は2011年度春学期に担当した上級聴解の授業を「ニュース聴解」という題目で行った。計15回の授業のうち、前半の6回は『ニュースの日本語　聴解50』（スリーエーネットワーク）を使用して、ニュースの構造に慣れニュースで多用される表現を学ぶことに重点を置き、後半の7回ではニュース番組（生教材）を使用した。本稿では、ニュース番組を利用した授業形態や方法について報告する。

## 2．授業概要

本授業は15回である。第14回は期末試験、第15回は期末試験のフィードバッグとまとめを行っ

た。前半の6回は、ニュース聴解に特化した日本語学習者用の教材『ニュースの日本語　聴解50』（スリーエーネットワーク）を使用し、後半の7回は生教材であるニュース番組を視聴した。

### 2.1. 対象

担当した聴解授業は選択科目である。登録し期末試験を受けた学生は8名である。男女比、コース、国籍の内訳を以下に示す。

| 男女比 | コース | 国籍 |
|---|---|---|
| 男　1名<br>女　7名 | J　　3名<br>MA　　5名 | 中国4名、タイ1名、ミャンマー1名、<br>ハンガリー1名、チェコ1名 |

授業内で学生のニュース視聴頻度に関する質問をしたところ、回数には差があるものの全員が1週間に何度かニュースを視聴しており、ほかにもドラマやアニメなどを見ているとのことで、メディア聴解の機会が多いことが伺えた。本授業は「ニュース聴解」という講義題目であり、学生も事前にそれを理解した上で受講しているため、メディア聴解に慣れた、または興味のある学生の登録が多かったと推測される。

第一回の授業では、学生のニーズを把握するため、アンケート調査を行った。第一回の授業参加者で授業に登録した5名から得た結果では、興味があるニュースジャンルは、社会・生活に関するニュースという回答が3名で最も多かったが、そのほかの学生からはあらゆるジャンルに興味があると回答があった。また、聴解能力に関して困ることに関しては、方言や高齢者・年配の話す日本語（3名)、専門用語（2名）という意見が挙げられた。第一回で行った聴解問題について、5名中4名が難しいまたはやや難しいと回答しており、その理由については語彙・表現がわからないからとしている。また、全体的な意味はわかるが細かいところがわからないという意見もあった。

### 2.2. 教材

授業で扱ったニュース番組は以下の通りである。毎週ニュースを録画し、その中から前述のアンケート調査で学生の興味が高かった身近な社会・生活に関するニュースを中心に時事問題など、出来るだけ新しいニュースを教材として採用した。

・ある福島県の学校の衣替え　長袖着用を（NHKニュース7　2011年6月1日）
・電力不足に備えたスーパークールビズ（NHKニュース7　2011年6月1日）
・初の子どもの脳死移植へ―10代前半の少年に脳死判定―
（FNNスーパーニュースアンカー　2011年4月12日）
・平泉　中尊寺など世界遺産に登録（NHKニュースおはよう日本　2011年6月26日）
・新しい大阪駅の想定外の課題　（ニューステラス関西　2011年6月3日）
・外国人看護師受け入れの課題　（NHKニュース　おはよう日本　2011年7月8日）

ニュースの長さによって授業内で扱う本数は異なるが、短いニュースは1コマ（90分）で2

本視聴し、15～20分の比較的長い特集やニュースは１コマ～1.5コマで視聴した。

### ２．３．授業の進め方

ニュース番組を利用した授業の基本的な進め方は以下の通りである。ただし下記以外に、ニュース内容・長さや学習者の聴解能力の向上にあわせたタスクも取り入れた回もある。

【導入】

（１）背景知識の確認

ニュースの背景知識について、必要であれば教師が説明を行なう、または、その話題に詳しい学生がいれば説明させる。同時に、話題に関連した知識や経験などにも話を派生させできるだけ全員に発言をさせて、学生の背景知識の量を確認しておく。日本語母語話者がニュースを見る際にも既有知識がある場合が多く、同じように学生にもある程度の事前情報は必要であると思われる。

例えば、「平泉　中尊寺など世界遺産に登録」のニュースでは、まずキーワードとなる「世界遺産」について知識を確認する。語の意味を知っている学生に日本の世界遺産の名称を挙げながら説明させ、その後世界遺産の種類や時刻の世界遺産などについて話をした。

（２）語彙・固有名詞の確認

キーワードやテロップに出る漢字などを中心に扱う。ここでもできる限り学生に日本語での語彙説明を促した。確認が必要な語彙数が多い回には、今から聞く内容がどのようなものか予測することもあった。ただし、全ての語彙は確認せず、文脈で推測できるものはこの時点では説明しない。また、固有名詞の説明は、「人名」「建物の名称」などの説明にとどめそれぞれがどのような立場にあるかなどはニュースの内容や説明から聞き取り理解するように促す場合と、導入時に詳しく説明し内容理解やその人物の発言の聞き取りに集中させる場合に分けた。スーパークールビズのニュースの「クールビズ」は、そのことばはキーワードとなるが、ニュース内で具体的な説明がある。その説明で使われる語彙は学生にとっては既習、または映像や文脈から推測できるものであるので、聞き取らせる。しかし、「初の子どもの脳死移植へ」での「移植者協議会」「理事長」などは立場や役割など詳しく説明した。

【ニュース視聴・内容確認】

（１）全体視聴

まず、ニュースを最初から最後まで通して視聴し、概要を把握する。

（２）ワークシート記入①

キーワードの抜き出しやニュースの要点を１，２文でまとめるなど、ニュースの概観について問う問題をさせる。ニュースでは要点が冒頭に述べられているが、その部分を理解しているかの確認と、その後に続く説明から詳しい情報を得られているか、得られているなら要点として付加すべき内容がどこにあると考えているかを把握する。

（3）部分視聴、ワークシート記入②

細部理解、重要な点などを理解するために、ひとつの纏まりで区切ってニュースを見る。ワークシートを使用して、内容理解の確認や語彙推測をする。問題は、ニュースの内容によって異なるが、（a）インタビューのディクテーション、または内容要約、（b）状態や状況、展開の説明　の確認は必ず行った。（a）については、アンケート調査で方言や高齢者の話す日本語がわかりにくいという意見があったため取り入れた。インタビューでは、年齢や出身地の異なる人々の話し方を聞くことができる。また、公の立場で見解を述べている日本語や観光客としてリラックスした様子で感想を話す日本語などさまざまなタイプの話し方に触れることができ、学生が現在の環境では耳にしない話し方に注意が向けられるようにした。方言は産出できるようになる必要はなく、発話内容を理解できるようになることを目標としたが、表に出た発話のみでは意図が摑みにくいものや慣用表現などについてはディクテーションを取り入れた。未知の語彙を聞いた時、辞書で調べるにせよ、知人に確かめるにせよ、意味を調べるには正確な聞き取りが必要だからである。（b）の活動の意図は、ニュースの部分ごとのつながりを理解し、まとまりがいくつあったか、どのような内容であったかを意識させることである。また、聴解では聞いた内容を元の通りそのまま繰り返すことは難しいので、理解できた内容を必然的に自分の言葉で述べることが必要となる。前後の関係や構成、段落を考え、語彙の学習、習得にもつながると思われる。さらに、視聴した内容を再構築するというアウトプットのタスクにつなげる準備も兼ねている。

ワークシートの答え合わせは、基本的にひとりずつ指名して回答させた。回答に当たる部分説明や要点を答える問題は、さまざまな表現が可能であり、より纏まったわかりやすい表現を考える活動も取り入れた。

ワークシートは不定期に回収した。学生の理解度合いの確認、教材及び設問の適切性の判断材料とするためである。毎週回収しなかった理由は、比較的聴解に慣れている学生が多いといってもやはりクラス内で聴解能力に差があり苦戦する様子が見られる学生もおり、毎回の授業で評価されるという過度のプレッシャーを避けるためである。適度にリラックスした状態で受講できると同時に、不定期に回収を行なうことで引き締め効果もあったように思われる。

（4）全体視聴

再視聴することで、ワークシートの問題や授業に出た質問内容等を学生が各自再確認し、理解を深めた。

【要約・再構築】

聴解からアウトプットにつなげるために行った。要約が本来の目的であったが、文字数を制限しなかったため、内容をまとめた再構築に近い場合もあった。ニュースの内容や難易度、学生らの反応から以下のような形態を取った。

- ワークシートやメモを見ながら要約する。
- ペアで相談、議論しながらひとつの要約を作成する
- ワークシートは見ずに要約する

【ディスカッション・まとめ】

目的意識を持って聞かせるために、視聴後にも自分の意見を述べる時間を設けた。内容理解にとどまらず、話題応じたディスカッション活動を取り入れた。回によって、自分の体験を述べるのみの場合もあれば、問題提起し意見を理論的に述べることもあった。特に活発な発言があったのは、「新しい大阪駅の想定外の課題」や「初の子どもの脳死移植へ」である。

### 3．アウトプットにつなげるタスク

目的を持って聴解をするために、ニュースの要点をまとめる、要約をするなどのタスクを取り入れた。その活動のうち、「スーパークールビズ」と「初の子どもの脳死移植へ」で学生が作成した要点・要約文を紹介する。

### 3．1．「スーパークールビズ」の要点

環境省でのスーパークールビズの取り組みを紹介した3分程度の短いニュースである。一度ビデオを視聴した後、要点をまとめる活動を行った。なお、「環境省」という語彙はニュース視聴前に説明している。

内容を正確に理解し適切にまとめられていたのは以下の2点である。「何がどうした」に加え、理由や「スーパークールビズ」の説明がされており、適切なまとめ方といえよう。

①電力不足に備えるために、クールビズより一層軽装のスーパークールビズを環境省が始めた。
②電力不足に備えて環境省は今年六月からスーパークールビズという取り組みを始めた。

以下に挙げる6点は要点のまとめ方に課題が残ると思われる。

①電力不足に備えるために会社ではスーパークールビズが始まった
②スーパークールビズといって会社などに節電のため環境省が夏着を着て通勤し始めた
③スーパークールビズが始め、節電のために、一般のスーツの代わりにもっとゆるくて、着やすい服装も許されます
④れいねんより『クール』なクールビズがはじまりました
⑤今年の6月からスーパークールビズが始まった
⑥スーパークールビズが始まった

ひとつずつ考察してみたい。①では「会社」になっているが、「環境省」の誤りである。導入時に「環境省」という語彙も説明済みであるが、ニュース内では一度しか出てきておらず聞き取とれなかった、または聞き逃したものと思われる。その他については正しく要点がつかめている。②は、「スーパークールビズが始まった」ことをニュースの要点としているのではなく、「（環境省の人たちが）夏の服装を着て通勤し始めた」ことに視点が置かれている。③は、それ

ぞれのまとまりで要点となる「スーパークールビズが始まった」「スーパークールビズ実施には節電の目的がある」「一般的なスーツの代わりにゆるい服装の着用が許される」という３つを正しく聞き、要点として抜き出せているが、再構築する際に、まとめ方に問題があった例である。「節電のために、一般のスーツの代わりに、もっとゆるくて着やすい服装も許されるスーパークールビズが始まります」とすればより適切なまとめ方に近づく。ただし、②③は、スーパークールビズという用語は使用されているものの、クールビズや衣替えが開始されたとも捉えられる表現であり、そこにも改善の余地があるだろう。④は、キャッチフレーズとしてニュースの見出しとしても使われそうな表現であるが、「要点をまとめる」というタスクにおいては、必要な情報が不足している。また、⑤⑥も、簡素にしすぎており、ニュースの内容を端的に説明はできていないだろう。

### ３．２．「初の子どもの脳死移植へ―10代前半の少年に脳死判定―」の要約・再構築

視聴したニュースは、小児からの臓器移植提供についてである。ニュースの内容は、15歳未満の少年が脳死と判定され臓器が移植されることになったことであり、以下のような順序で展開していく。

ニュースの概要　→　会見（家族の意見を代弁）　→　改正臓器移植法の説明
→　会見（家族の意見を代弁）　→　支援団体についての説明　→　支援団体の会見
→　今後の手術の予定

前週に、『ニュースの日本語　聴解50』の「改正臓器移植法成立、子どもへの臓器移植に道を開く」（pp112-115）を授業で扱い、改正臓器移植法が成立したことにより15歳未満の小児からの臓器移植が可能になったというニュースを聞いている。臓器移植や脳死についての基本的な知識もその時点で得ており、翌週には子どもの臓器移植に関するニュース番組を見ることを伝えている。

#### ３．２．１．要約・再構築（１）

この授業では、一度全体視聴をした後にニュースの内容を出来るだけ詳しく説明しながら内容をまとめるタスクを与えた。なお、タスクの指示は視聴前に行なっている。

①15才未満の子供の間での臓器移植が改正臓器移植法の成立でできるようになった。国内ではじめての15才未満の子供から子供への心臓移植が大阪病院で行われる。
②10歳以上15歳未満の子どもが初めて臓器を提供したというニュースです。臓器を提供した子どもは交通事故でなくなり、死亡が確認された後臓器を提供した。改正臓器移植法によると、心肺の臓器が、15歳未満の子どもも提供できるので、これから阪大病院ではこのような手術を行う予定です。
③15さいみまんの子供もどうき移植が初めて行われました。かんじゃは10さい以上15さいみまんの男です。交通事故で頭をきずついて、２回おこなわれた脳しんさのあとで脳死と判定されました。
④去年、「家族の承諾があれば15歳未満の子供でも臓器提供できる」という法案が出てきました。初めての子供の脳死移植が阪大病院で行なわれました。その子供は

脳死と判定されました。
⑤家族と同意すれば、10歳から15歳の脳死亡患者の内臓を希望する患者に提供して移植手術を受ける。
⑥今、法律上で10才～15才未満の子供の臓器を提供するのが可能になった

まず、①は、再構築としては不十分であるが、要約としては簡潔に出来ている。ワークシートで内容理解を確認した後に再度、要約・再構築をしたが、その時にも同文を記述しており、要約や要点をまとめるタスクと認識していた可能性がある。②については、内容の一部に誤りがある。ニュースの内容では、臓器提供者は脳死と判定されているが臓器の摘出や移植はまだ行われていない。「臓器を提供した」と捉えている点で誤りはあるが、会見以外の内容は簡素にまとめて再構築できている。③、④も、②と同様に臓器提供が行われたとしている。また、③では出来事の前後関係が正しくないためにニュースの内容が分かりにくくなっているように思われる。確かに、要点は冒頭に述べられるが、その後の情報が冒頭の概要部分を補足、説明するのに十分な情報がなければ、ニュースで放送された順番で聞き取れた内容を並べただけではわかりにくくなってしまう。さらに、「かんじゃ」が臓器移植を受ける側なのか臓器提供する側なのかも曖昧である。④は書き出している内容はすべて正しいが、聞き取れた内容を羅列しているという印象である。⑤⑥に関しては、ニュースの要点をまとめるのみで、導入で話した内容とほぼかわりがない。ただし、⑥は「初の子の脳死移植、事故で脳死、可能、新しい時代」などのメモがあり、部分的に聞こえているものの文章化するまではいかなかったようである。①～⑥に共通することは、一度目の視聴で概観は理解できているものの、詳細までは文章として再構築するまでは理解できていないということである。移植手術についても具体的な臓器まではかかれておらず、会見の内容にも触れられていない。

なお、2名は、キーワードを書き出すのみで、文章にはできていなかった。

### 3.2.2. 要約・再構築（2）

上記のタスク後、ワークシートを使用しながら部分視聴し、内容を確認していった。部分視聴をする前に、少年が脳死だと判定された理由を問うと、「交通事故」という答えが得られ、再構築の文章には表れてはいないものの重要な点は聞き取れていることが分かった。中には「交通事故で頭に大きい怪我をした」と具体的に説明した学生もいた。会見内容について問う問題でも、ディクテーションのようにほぼすべての発話が聞き取れている学生もいれば、発話の大意のみを理解している学生やテロップから読み取った情報を書き出している学生など様々であった。また、一文中に情報量多く、映像やテロップが何を表しているのか、的確に理解できていない箇所もあった。例えば、「摘出される臓器」と「今回の移植手術で提供される臓器」について語られ場面では、移植手術が行われる病院の映像が流れていたせいか、二つの内容を反対に捉えていた学生が多かった。

内容把握の確認をした後、再度全体視聴し、再び内容をまとめるタスク＜要約・再構築（2）＞を行った。基本的には自分の記憶で書くが、ワークシートを見ることも可とした。
ここでは、前項の②の学生が作成した1回目と2回目文章を比較してみたい。

（1）10歳以上15歳未満の子どもが初めて臓器を提供したというニュースです。臓器を提供した子どもは交通事故でなくなり、死亡が確認された後臓器を提供した。改正臓器移植法によると、心肺の臓器が、15歳未満の子どもも提供できるので、これから阪大病院ではこのような手術を行う予定です。

（2）改正臓器移植法のおかげで15歳未満の子どもが初めて10代の少年に心臓を提供する。心臓を提供するのは、交通事故で頭の重傷を負って死した少年だと言われている。日本臓器移植ネットワークの会見では、家族が「臓器移植があれば、命をつなぐことができる人たちのために、彼の身体が役に立てれば、彼の願いに沿うことだと考えた」と言っていた。また、日本臓器移植者協議会の理事長は「心からお子さんを愛されてそれで提供されたんだと思っています。新しい時代が始まったと実感している」と言っていた。今回、移植されるのは心臓、肺、肝臓、腎臓、すい臓と小腸で、明日大阪大学の病院で重い心臓病の少年に摘出手術が行なわれる予定である。

2回目の要約・再構築では、1回目の要約にはなかった、会見の内容・移植臓器・手術についても書かれ、ニュースの内容を全て網羅できている。また、一つの文をとっても、「交通事故でなくなり」という表現が「交通事故で頭の重傷を負って死した少年」というように、文法の誤りはあるものの詳しく書かれている。会見の内容は発話をそのまま再現しているが、その他の箇所についてはニュースで使用された表現とは違う言い方、即ち自分の言葉で再生することができている。しかし、ニュースの区切りひとつひとつは的確に要約されているものの、其々の文の関連を表す表現が使用されていない。全体としてまとまりのある要約にするのが課題であろう。

**4．学生の反応と今後の課題**

出席カードに毎回1、2行程度の授業感想を得ている。ニュース番組の扱った回のコメントから、学生の反応は、大きく以下のように分けられた。

i　映像のある聴解に関して

初めてニュース番組を視聴した回には、映像があった方が分かりやすいという感想が多く見られた。また、その他のニュースについても、「映像があって大変助かりました。内容はちょっと難しいと思います」というコメントがあった。

ii　背景知識について

以前、ほかの授業でレポートを書いたり読解で関連資料を読んだことがあり、授業が分かりやすかった／難しくなかったという意見が「初の子どもの脳死移植へ」（臓器移植法についての知識がある）や「外国人看護師受け入れの課題」の回に多く見られた。また、前述の通り脳死移植のニュースを扱った回では前週に関連ニュースの聴解問題を聴いており、「（そのおかげで）わりとわかりやすかった」「分かりやすくなりました」というコメントが得られた。

iii　授業の方法について

学生から評価が高かったのは、グループワーク（要約を考える）やディスカッション（改正臓器移植法について）であった。「自分がメモした内容によって問題を答えるのはちょっと難しいですが、大変勉強になりました」という意見もあった。

iv　ニュース番組の感想

特に評判がよかったのは「中尊寺など世界遺産に登録」と「新しい大阪駅の想定外の課題」のニュースである。大阪駅については身近な場所であり想像しながら聞け、世界遺産は旅行に興味がある学生が多く実際に行ってみたいと興味をひきつけられたとのことである。

v　自分の能力について

「内容が分かりましたが、全ての単語が聞き取れたわけではなかった」「長い文は聞き取れなかったです」などのコメントがあった。また、全体は難しくないが、聞きなれない場所の名前が出てくると混乱して全体が聞き取れなくなるという内容や「前後関係を考えながら聞いたらよく聞き取れた」という感想もあり、内省している様子も見られた。

本授業では、自発的に質問や意見を述べ、積極的に授業に参加する学生が多かった。しかし、聴解授業では、個人の作業が多くまた受身になりがちなため、目的を持って聴解を行うよう促さなければならない。要約やペアワーク、ディスカッションのような活動を多く取り入れたが、ディスカッションについてのコメントがあったのは「初の子どもの脳死移植へ」の回のみであった。「聴解」の域を出すぎず、より効果的に聴解力を高められるタスクには何ができるか更に考え、取り入れて行きたい。

**参考文献**

市川智子（1990）「上級聴解クラスにおけるテレビ報道番組のビデオの利用―米国国務省日本語研修所の場合―」『日本語教育』73号　日本語教育学会

遠藤裕子（1988）「大学生のための聴解―ニュース番組の特集を利用して―」『日本語教育』64号　日本語教育学会

金庭久美子（2011）「日本語教育における聴解指導に関する研究―ニュース聴解の指導のための言語知識と認知能力―」『日本アジア研究』第8号　埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要

當作靖彦（1988）「聴解能力の方法と教材―聴解のプロセスを考慮した練習―」『日本語教育』64号　日本語教育学会

（みはら　ちか　本センター非常勤講師）